

## 沿革の概要

明治 6. 6. 12	入膳小学校 創校 和泉十兵衛氏宅 (旧役場跡)
7. 7.	自卑小学校と改称
20. 4. 1	自卑尋常高等小学校と改称
23. 4. 1	入善尋常小学校と改称
25. 10.	成器高等小学校と改称
27.	入善尋常高等小学校と改称
43.	校歌制定
昭和 11. 1. 10	全校舎焼失 (講堂のみ残る)
12. 6.	現位置に校舎を建築、講堂移転
16. 4. 1	入善国民学校と改称
22. 4. 1	入善町立入善小学校と改称
28. 6. 12	創立 80 周年記念式
30. 6. 12	校舎改築第 1 期工事竣工式
31. 6. 12	校舎改築第 2 期工事竣工式
37. 8.	給食室増築第 1 期工事落成
38. 6. 12	創立 90 周年記念事業
45. 11. 4	学校給食優良校表彰 (県教委)
46. 2. 7	日本水泳優秀校表彰 (県教委)
47. 12.	校舎第 3 期工事竣工
48. 6. 12	創立 100 周年記念式
48. 12.	スキー山竣工
59. 4.	国語科研究推進校 (県小教研指定) 60 年度まで 2 年間
平成元 8. 25	新校舎竣工 5,991 m <sup>2</sup>
2. 8. 30	グラウンド完成 8,791 m <sup>2</sup>
3. 2. 28	体育館棟竣工 1,430 m <sup>2</sup>
3. 3. 13	新校舎竣工式
4. 4.	音楽科研究推進校 (県小教研指定) 5 年度まで 2 年間
12. 10. 19	学校給食 文部大臣表彰
14. 4.	学力向上フロンティアスクール実践研究 (県教委指定)
15. 6. 12	創立 130 周年記念式
15. 11. 4	P T A 県教委教育功労者等表彰
17. 11. 22	優良 P T A 文部科学大臣表彰
18. 11. 21	N I E 研究発表会
19. 4.	図画工作科研究推進校 (県小教研指定) 20 年度まで
23. 4.	児童・生徒のボランティア活動普及事業推進校 25 年度まで
23. 4.	親切運動推進協力委嘱校 24 年度まで
24. 4.	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育研究推進校 25 年度まで
25. 4.	「学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業」 27 年度まで
25. 6. 29	創立 140 周年記念式
25. 10. 25	北陸四県数学教育研究(下新川)大会
27. 11. 3	県教育委員会表彰「近視部門の部 準優良校」
28. 10. 26	平成 28 年度弘済会教育振興助成経営改善奨励助成受賞
29. 7. 3	入善小学校プール竣工
29. 11. 1	健康教育実践優良学校表彰「総合の部 努力賞」
31. 4. 1	弱視特別支援学級開級
31. 4. 1	「学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業」 令和 3 年度まで
令和元 8.	大規模改装工事第 I 期開始
2. 6.	大規模改装工事第 II 期開始
3. 6.	大規模改装工事第 III 期開始
3. 12. 28	大規模改装工事終了
5. 11. 11	創立 150 周年記念式



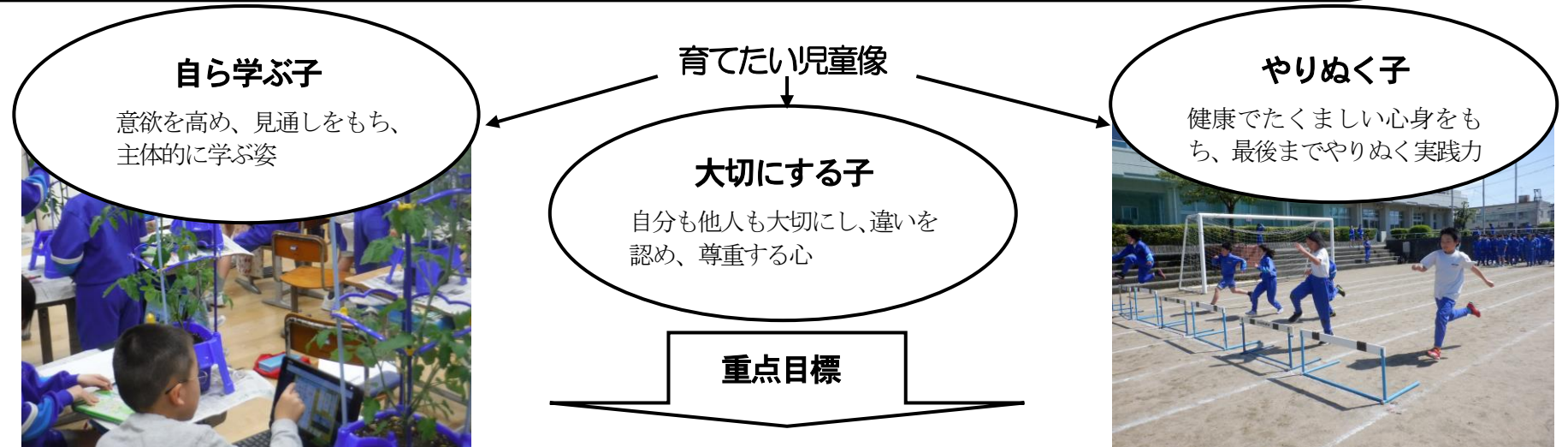
目指す学校像

笑顔と学びにあふれ、地域とともに歩む、信頼される学校

学校は、わたしとみんなが育つところ - 自律と尊重 -

学校の教育目標

じりつする子供の育成 - 自ら学ぶ子 大切にする子 やりぬく子 -



### 1 児童の学ぶ意欲の向上と主体性を大切にしたい確かな学力の育成

- 現行学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、GIGAスクール構想等、新しい学校教育の変化を的確に捉え、日常の研修を通して、「学習者主体の学び」への進化に取り組む。
- 「主体的・対話的で深い学び」の授業実現に向けて
  - ・ 子供自身が「問い」をもち、主体的に学べるよう単元を構想する。各教科の見方・考え方を教師が明確に捉え、子供が見方・考え方を働かせられるようにすることで、「深い」学びのある授業を実践する。
- タブレットの日常的な活用
  - ・ タブレットの活用を日常化し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に取り組む。『学び合い』、単元内自由進度学習等の子供主体の学びを取り入れる。
- プログラミング学習
  - ・ 論理的な思考力育成を意図し、各学年、計画的にプログラミング学習を取り入れる。
- 家庭学習の充実
  - ・ 子供の学習意欲の向上につながるよう日々の授業を充実させ、家庭との連携を図る。
- 現職研修の充実
  - ・ 新しい学校教育に的確に対応できるように、校内での「日常の研修」と県の「研修受講システム」を効果的に活用し、教職員のスキルアップに努める。

研修主題：教科の見方・考え方を働かせながら、主体的に学ぶ子供の育成

研修主題の視座

- 視点1 教科の見方・考え方が働く単元構想の工夫
- 視点2 対話を効果的に取り入れた授業づくり

### 2 自他の生命と人権を尊重する豊かな心の育成

- 学級、学年での意図的な人間関係づくりと豊かなコミュニケーション
  - ・ 活動を通して、コミュニケーションの量と対話の質を高めながら、温かい人間関係とお互いを尊重する態度を育む日々の教育活動の充実に努める。
  - ・ 「自分から進んで」「心を込めて」「自分で考え」挨拶や掃除、後始末に取り組めるよう支援することにより、自尊感情や規範意識を育み、温かい人間関係づくり、学級づくりに努める。
  - ・ 総合質問紙調査等の各種調査や生活アンケート、教育相談等を生かし、一人一人のよさを認め、自己肯定感、自己有用感の育成に努める。
- 学校行事の充実
  - ・ 前年度の成果と課題を基に、「じりつ」のための具体的取組を通して、子供たちと共に創り上げる行事を目指す。今年度は、特に子供主体の「委員会活動」に取り組む。
- 異年齢集団により活動の充実
  - ・ 昨年度から開始した「縦割りグループによる給食」から、今年度は「縦割り遊び」の充実、そして「縦割り掃除」に取り組むことで、異年齢での学び合いによる育ちを見守る。
- 「じりつの時間」の設定
  - ・ 生活の中、社会のニュース等から価値観を問い、生き方、あり方を対話する。

### 3 ねばり強く、諦めないで、最後まで努力を続ける子供の育成

- 基本的な生活習慣の確立
  - ・ ゲームやネットのある生活を自分でマネジメントできるように保護者への啓発と同時に、「じりつの時間」や学級活動等でメディア・コントロールを問い続ける。
- 運動に親しむ習慣の確立
  - ・ 運動の環境を整え、気軽に運動に親しめるようにする。
- 体育科の授業の充実
  - ・ 体育科の授業研究、職員の研修を通して、子供が運動の楽しさや喜びを味わうことのできるよう授業の充実に努める。

## 地域の特色と児童の実態

校区は、町の中心市街地と周辺の農業地帯で構成されている。校区周辺では、企業立地や大型店舗の進出、新興住宅地が増えている。外国人児童も増える傾向にあり、地区住民の生活スタイルが都市化している。また、公共施設(うらおい館、町民会館、図書館、総合体育館、健康交流プラザ、中央公園等)が整備され、活気ある地域でもある。保護者の勤務形態や価値観は多様化しているが、地域住民とともに学校の教育活動に協力的である。

明るく素直で活動的な児童が多い。校内のオープンスペース機能を生かし、一部の学習を学年で実施し、複数の教師の目で一人一人の児童を捉え指導に生かすようにしている。日頃から触れ合いを深めながら児童の内面を理解し、自己存在感や自己有用感を味わえるように家庭との連携も図っている。